

創刊のことば

この『総合都市研究』第1号を送り出すことによって、東京都立大学は、都市研究の専門誌をようやく持つことになった。ただし、その編集と発行の実質的な主体は、新設の東京都立大学都市研究センターであり、故に本誌はこのセンターの機関誌である。

センターの設置までには、その準備のための具体的な活動が始まった時から数えても、約10年かかっている。しかも、できたセンターの実際は、当初の構想に比べれば縮小に縮小を余儀なくさせられた。その間の事情は、以下に続く総長の言葉とセンター所長の経過報告とに十分に語られている。センターと本誌は、そういう歴史の所産である。

したがって、本誌は、そのような歴史からの条件を始めからせおっている。発行回数をもっと多くしたいと願いながら、本誌は、少なくとも当分の間は年3回しか発行されないで終わろう。もっと容易な頒布を望みながらしばらくはそれができない不便さを読者にしのいでいただかねばならない。編集計画を立てるにも、白地に好むままの絵を描くというわけにはゆかない。この創刊号を見ていただくとすぐ分るような諸条件が、本誌にはおわせられている。

だが、われわれは、これを制約だとは思わない。むしろ、それらは本誌がうまれことを可能にした条件であり、歴史が与えてくれたわれわれへの遺産であると、われわれは理解する。何よりも、以上の苦しかった経過と条件にもかかわらず、これを生かして当初の構想にむかい、本誌を、そしてセンターを発展させてゆこうとする意欲が、われわれを激励し見守ってくれていることを感ずる。

新センターの研究活動が軌道に乗り、本誌の独自の編集方針が実行されるまで、本誌も何号かの間は、センターの前身であった都市研究委員会の研究活動の成果を発表しつづけ、したがってそのころの発表形式「都市研究報告」の様式をある程度は生かした内容のものとして、送りだされることになる。そしてその間に、本誌独自の性格を作りあげてゆくことを、われわれは努めるつもりである。これを見守るとともに、積極的な激励・示唆を与えられることを、読者の方々に願ってやまない。

1977年11月

編集委員長 千葉正士